

工藤 智康さん（埼玉県在住）



東北ずん子スタンプラリーには、平成28年から毎年参加し、昨年のスタンプラリー期間中は、白石市を4回訪れ、スタンプラリー参加店舗で買い物をしました。現在は、スタンプラリーをきっかけに出会った弥治郎くやし村の工人さんとも親しくなりました。弥治郎くやしさんが大好きになり、工人さんが東京に実演販売にいらっしゃるときは、販売先に行くようにしています。

白石市の全日本こけしコンクール、鬼小十郎まつりなど、主要なイベントには必ず参加し、2泊3日程度宿泊もしています。年間だと10回以上は来ているですね。

東北ずん子をきっかけに、私は白石市の大ファンになりました。年間の支出は、旅費も含めたら1カ月分の給料ではすみませんが、これからも大好きな白石市を訪れたいと思っています。

千原 美穂子さん（神奈川県在住）



10年位前から東北ずん子スタンプラリーをきっかけに、白石市を訪れるようになりました。それまでは、白石市のことには知らなかったのですが、東北ずん子が私と白石市を結び付けてくれたことは間違いありません。スタンプラリー以外でも、白石市に来る機会が増え、高校生の梅花藻の取り組みなどもすごいと思っています。

白石市を訪れる一番の理由は、スタンプラリー協力店舗の方々と交流ですね。お店の方々がやさしく、また来たいと思うようになります。スタンプラリーを通し、鬼小十郎まつりなど、白石市のイベントには積極的に足を運ぶようになりました。これからは、白石市には通い続けたいと思っています。

応援の気持ち
子どもたちへ

本年1月、スタンプラリー協力店舗のチーズキッチン（仙台市在住の渡沢真さん）より、本市の保育園・幼稚園などに「それいけ！ずんだもん」の絵本70冊の寄贈を受けました。スタンプラリーをきっかけに、本市への応援の気持ちが子どもたちにも届けられています。



▲渡沢夫妻と山田市長

市民の力が人を呼ぶ！

市民活動の強みとは、自由な発想と柔軟な取り組みが行いやすいという点ではないでしょうか。携わっている皆さんに共通することは、自分の住むまちへの愛着と誇りであり、自分に何ができるのか自ら考えた上での行動力だと思います。

観光産業には、関係人口の交流、観光誘客による経済効果、商工業の発展など、さまざまな取り組みが求められます。それは行政だけで成し得るものではありません。多業種の連携は不可欠であり、そこに市民団体が加わることは、とても大きな力と言えるでしょう。

スタンプラリーの活動に限らず、それぞれの関心ごとをテーマに人と人がつながり、その輪が広がって本市への誘客や経済効果を生み出しています。その原動力は、白石市への郷土愛。その想いに、本市を応援してください。たくさんの方の想いも加わり、まちの元気につながっています。

地域主導型コンテンツツーリズム
～「白石モデル」への期待～

宮城学院女子大学 現代ビジネス学部
教授 大谷 尚之先生



先祖が白石に住んでいたこともあって、白石市には親しみを感じています。近年、地域振興を目的としてアニメなどのコンテンツを活用する動きが増えています。その中で、白石市の「東北ずん子スタンプラリー」は、他の事例とは異なる性格を備えています。

基本的に地域側は、コンテンツが制作されるのを待つ立場であり受け身の存在です。しかし、白石市では、東北ずん子というキャラクターを自ら選んで主体的に活用しています。市民とずん子ファンの協力によってコンテンツが地域に根付いており、まちの規模にもフィットしている気がします。地域主導でコンテンツを活かしている「白石モデル」は、異彩を放っていると思います。

地域活性化やまちおこしは大切ですが、そればかり強調してしまうと、説教臭くなります。これまでもそうだったように、地元の方とファンと一緒に楽しみながら、スタンプラリーを続けていってほしいと願っています。

第16回スタンプラリー期間
6月6日(土)～7月20日(祝)まで



東北ずん子
スタンプラリー

東北ずん子スタンプラリー実行委員会ホームページ▶

